

2 気になる状態像と考えられる対応（Q & A）

Q 1 聞き取りが苦手な子どもには、どう対応したらよいでしょうか

子どもの状態

聞いたことをすぐに忘れて、何度も聞き返す。
集団の中で言葉の指示や注意を理解できない。
少し複雑な会話や頼んだ用事の内容を理解するのが困難である。

話を聞くとき、注意の集中・持続時間が短く、最後まで話を聞けない。

状態の理解のポイント

- ・ 聞いた言葉を記憶することが難しい。
- ・ 語彙が少なく、話の内容を理解できない。
- ・ 周りの刺激が気になって、話に注意を集中できない。
- ・ 自分に話し掛けられているという意識・自覚がない。

考えられる対応

指示は、具体的な言葉で短くはっきりと伝える。

指示内容を複数でなく一つに絞り、その一つが遂行できてから次の指示を出す。

絵や写真カード、文字カードを使って視覚的に情報を補い、内容理解を助ける。(図76)

経験したことを絵に描いたり、写真を見て話をしたりして、内容理解の力を高める。

担任の言葉以外の聴覚刺激あるいは視覚刺激の何に反応しているのかを探り、それを除去する。

座席の位置を工夫するなど、他からの刺激に反応しにくい環境を工夫する。

話す前に名前を呼ぶ、目を合わせる、肩に手を掛けるなどして、注意を引き付けてから話す。(図77)



図76 視覚的な情報の補充



図77 注意の引き付け

家庭との連携

お使いや電話取り次ぎの際に、メモをとるように言葉掛けし、習慣化を図る。(図78)

遊びやお手伝いなどの具体的な活動を通して、理解言語の数を増やす。



図78 メモを活用した聞き取り

Q2 自分の考えを相手にうまく伝えることが苦手な子どもには、どう対応したらよいでしょうか

子どもの状態

発音に関する自信がないようで、発話が少ない。
自分から話すことが少なく、聞かれたことに答えるのが中心である。
単語や二語文での話が中心だったり、助詞が抜けたりして、相手に適切に伝わりにくい。
何を言いたいのか分からない話をする。

状態の理解のポイント

- ・ 発音に関して問題がある。
- ・ どんな順序で話したらよいのか分からない。
- ・ 話したいことが見付からない。
- ・ 表現したい言葉が出てこない。
- ・ 文章を構成することが苦手で、話したいことを整理できない。

考えられる対応

「そう、 したの」というように、うまく伝わったことを知らせながら、正しい発音のモデルを自然に示す。
出来事を時間や順序に従いカードに書き、それを見ながら話すようにする。
質問の仕方を工夫し、具体的な例の中から答えやすい状況をつくる。(図79)



図79 選択的な投げ掛け例

写真や実物を使い、話したいことをよりイメージしやすいようにする。
5W1Hを教師の方から聞き取ったり、「いつ」「どこで」の文字カードを見ながら話したりする。(図80)



図80 5W1Hを手掛かりにした話し方

「 について話します。」などと、初めに話題を言ってから話すようにする。
話し始めや詰まったときに援助をして、残りを一人で話すようにする。
本人の発する単語を意味をふくらませて返し、話し方のモデルを示す。(図81)



図81 意味をふくらませた返し方

家庭との連携

家族が聞き上手になり、十分に時間をとって話を聞き、話したいという意欲を失わせないようにする。

Q3 読み方の苦手な子どもには、どう対応したらよいでしょうか

子どもの状態

形の似ている文字を間違えて読む。
 助詞や文末などを正しく読めず、自分の思い込みで読んでしまう。
 ちょっとした物音にも気がそれ、集中して読めない。
 単語や分節の区切りを誤って読む。
 長い文章を読むとき、行をとばして読んでしまう。

- 状態の理解のポイント
- ・ 似ている漢字や平仮名の視覚的な弁別が十分にできていない。
 - ・ 集中して文字を見る・追うことができない。
 - ・ どこで区切ったらよいか分からない。
 - ・ 行が変わると、どこを読んだらよいか分からなくなる。

考えられる対応

形がよく似た文字の誤った弁別を確認し、その違いを言語化して子どもも話すようにする。(図82)
 読めない漢字はあらかじめ仮名をふっておく。
 一つ一つの文字を大きくする。一字ずつ指差しながら読むようにする。
 単語をまとまりとして素早く読み取れるように、フラッシュカードなどを用いる。
 単語や分節の区切りごとに / 線を付けたり、ラインを引いたりして、区切って読む練習をする。(図83)
 行間を大きく取った教材を提供する。
 一行だけが見えるページカバーを用いて、読んでいる行をとらえやすくする。(図84)



図82 形の違いの言語化



図83 区切りの情報補充

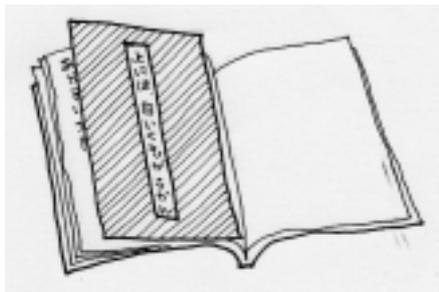


図84 ページカバーの活用

文字が大きく、文字数の少ない文章で、分節ごとに分けて書いてある本を選んで、家庭で読む機会を設定する。
 読めない漢字のふりがなや分節ごとの区切りの / 線の記入をお願いする。

Q4 文章の内容の読み取りが苦手な子どもには、どう対応したらよいでしょうか

子どもの状態

文章の内容に関することを尋ねても答えられない。
あるいは名詞や一語文で答えてしまう。
5W1Hに関する質問に答えられない。
読み取ったことを、言葉以外の動作や絵に表すことにも困難を示す。

考えられる対応

読み取りに取り組めるように、子どもが体験したことや興味のあることに関する文章を教材に用いる。

教師が範読して、文章の内容のあらましがつかめるようにする。

文章の内容に合った絵や写真を提示して、視覚的な情報を補い、内容理解を助ける。(図85)

文字カードを読んで絵カードを選択するなど、ゲームのように取り組めるようにする。

単語や分節の区切りごとに/線を付けたり、ラインを引いたりする。あるいは、行間を大きく取った教材を提供して、子どもが文章を読みやすい状況をつくる。

読み取った内容を動作化したり、絵に描いたりなどイメージ化を図って内容理解を助ける。(図86)

内容理解のポイント・質問事項を事前に知らせておき、子どもがそのポイントや質問の答えを意識して探しながら読めるようにする。

あらかじめキーワードにアンダーラインを引いておき、それを手掛かりに読み取るようにする。(図87)

家庭でも「しりとり」「なぞなぞ」などの言葉遊びや絵本の読み聞かせなどの機会を設ける。

状態の理解のポイント

- ・ 語彙が少なく、読んだ内容を理解できない。
- ・ 読んだ文字を具体物や事象と結び付けるのに時間が掛かる。
- ・ 正しく読むことに注意を傾け過ぎて、内容理解のゆとりがない。
- ・ 読んだことを記憶して再生するのが困難である。



図85 視覚的な情報の補充



図86 動作化による内容理解

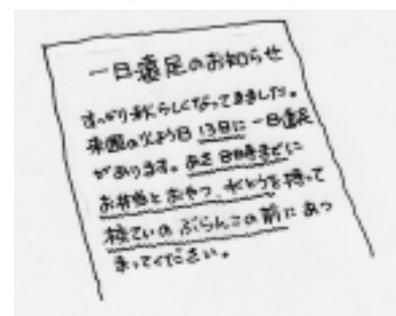


図87 キーワードの明確化

Q5 ひらがなや漢字を正確に書くことが苦手な子どもには、どう対応したらよいでしょうか

子どもの状態

視写はできるが、聴写になると極端に嫌がる。
似ている文字を間違えて書く。「な」「た」
鏡文字になる。「し」「満」

----- 状態の理解のポイント -----

- ・ 文字の形を完全に記憶していないために再生できない。
- ・ 似ている漢字や平仮名の視覚的な弁別が完全ではない。

Q 6 文章を書きたがらない子どもには，どう対応したらよいでしょうか

子どもの状態

作文や日記を書くことをとても嫌がる。
文章を書いても，伝えたい内容が伝わりにくい。
日記で，パターン化された文章しか書けない。
書いた文章の内容についての質問にうまく答えられない。
主述関係や5W1Hなどの要素が抜けた文章になる。

状態の理解のポイント

- ・ 文字を書くこと自体への苦手意識がある。
- ・ 文章による表現力が弱い。
- ・ 文章をうまく構成できない。
- ・ 「したから になった。」といったような論理的思考が苦手である。

考えられる対応

文字を書くこと自体への抵抗感を示す子どもについてはQ 5 参照。

子どもが自分の話を録音し，自分で再生しながら文章にしていく。

子どもが話したことを，教師が聞き取って文章にし，そのモデルを示すとともに，子ども自身が書く分量を少しずつ増やしていく。

子どもが話していることについて5W1Hを聞き出し，空欄の中を埋めるようにする。(図91)

ゲームを取り入れながら，主語と述語を組み合わせる。(図92)

書く内容を声に出して確認するとともに，抜けている要素を教師が補いながらリハーサルをする。(図93)

体験した出来事などでは，写真やビデオ等を手掛かりにしながら，順序を思い出したり文章に表したりする。

文章のモデルを参考にしながら，自分の場合はどうなるのかを考えて書くようにする。

文章構成の自信をもてるように，書いた文章はできるだけ発表する機会を与え，成功感を味わうようにする。

家庭の会話の中でも5W1Hに関することを意識させるようにし，手紙を書いたり伝言メモを取り入れたりなど，書く機会を設けるようにする。



図91 5W1Hの空欄埋め



図92 主述関係の組合せ



図93 書く内容のリハーサル

Q7 計算が苦手な子どもには、どう対応したらよいでしょうか

子どもの状態

例えば、「5」という数字の示す量が分からない。
 二つの数の大小関係が分からない。
 具体物や指を使っても計算ができない。
 たし算とひき算を混同してしまう。
 計算に時間が掛かる。筆算の桁がずれやすい。
 繰り上がりや繰り下がりのミスが多い。

状態の理解のポイント

- ・ 数字と数の概念が対応していない。
- ・ 数の大小，順序性，合成分解の理解が不十分である。
- ・ 数の記憶に課題がある。
- ・ 視覚的な認知力が弱い。
- ・ 注意の持続が困難で，最後まで計算できない。

考えられる対応

一つずつ指差しながら数え，数字カードと対応するように具体物を用いる。

極端に差のある二つの数を見せ，どちらが多いかを当てながら，その差を小さくしていく。

計算の手順に合わせて，「たす」「ひく」の意味を具体的な操作を通して教えるようにする。

+ や - の記号を赤ペンでなぞり，視覚的に認知しやすいようにする。

繰り上がりや繰り下がりの数を書き込む枠を，筆算の問題にあらかじめ設定しておく。(図94)

マス目や補助線の入ったノートやプリントを用意し，位や桁をそろえやすいようにする。(図95)

1枚のプリントに提示する問題数を少なくするとともに，1問分のスペースを大きくし，空白をとる。

計算の仕方を言語化し，教師のモデル，子どもの復唱，子ども自身の言語化による計算の順で進める。(図96)

家庭でも，手伝いの場など具体的な活動を通して，集合数や順序数の概念を育てたり，数の合成分解の操作をしたりする。

図94 繰り上がり数の記入欄

図95 補助線の活用



図96 筆算の仕方の言語化の例

Q 8 図形問題が苦手な子どもには、どう対応したらよいでしょうか

子どもの状態

積み木やブロックで手本どおりの模様が作れない。

面積や体積を求められない。

どの角とどの角，どの辺とどの辺が等しいかが分からない。

状態の理解のポイント

- ・ ものの形の違いの見分けや，回転の方向が分かりにくい。
- ・ 図形の名前や性質などの記憶や系統的な整理が苦手である。
- ・ 図と地の区別が付きにくい。
- ・ 論理的思考が苦手である。
- ・ 手先が不器用で，道具の使用が苦手である。

考えられる対応

「なかまさがしゲーム」，「まちがいさがしゲーム」など，視覚的なゲームやパズルで，形や回転に対する感覚を養う。

大きさや向きが同じものから始め，次第に変化を加えていくようにする。(図97)

大事な情報に集中できるように，大切な部分を目立たせたり，他の情報をカットしたりする。

竹ひごやゴムでいろいろな図形を作って，頂点の数や辺の数に気付くようにする。

部分から全体を推測するような教具で，部分と全体の関係をつかむことができるようにする。(図98)

挿し絵や簡潔な言葉で作図の手順を示したカードなどを準備して，一人でも混乱せずに取り組めるようにする。

子どもが取り扱いやすい作図用具(コンパスや定規等)の選択をするようにする。

実際にものを作ったり，入れ物の容積を量ったりするような具体的な活動経験ができるようにする。

家庭でも手伝いや地域の活動など様々な体験を通して，よく観察したり，次はどうなるか考えたり，ものをつくったりする。(図99)

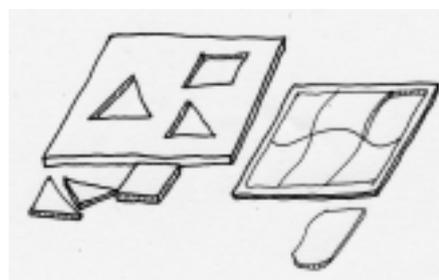


図97 パズル例

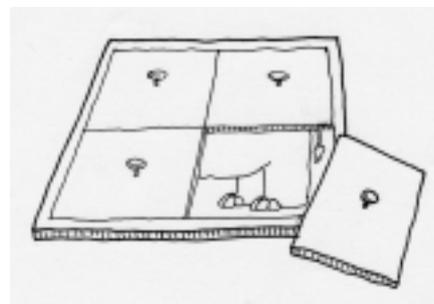


図98 教材・教具の例



図99 家庭での体験

Q9 計算はできるのに、文章題が苦手な子どもにはどのように対応したらよいでしょうか

子どもの状態

同じパターンの問題が続くときは解けるが、パターンが変わったり、長くなったりすると分からなくなる。

問題文から数字を選び出し、適当に式を作って答えてしまう。

状態の理解のポイント

- ・ 文字を読むことが難しい。
- ・ 使われている単語の意味や「これ」、「それ」などの代名詞や助詞等の意味が分からず、文章の読み取りができない。
- ・ 数同士の関係が分からなかったり、数概念が弱かったりする。
- ・ 何を問われているのかが分からない。

考えられる対応

読みでつまづいている子どもには、教師が問題文を読むなどの配慮をする。

「合わせて」、「全部で」、「残りは」、「違いは」など、キーワードをパターン化させて文章の理解を促すようにする。

問題を読むときに、要点にマーカー等で印を付け、「なにが問われているか」書かれている部分に線を引くなど、答えるべきことを明確にする。(図100)

問題の文章に沿って、具体物を使って操作・再現をさせ、視覚的な理解を促すようにする。(図101)

最初は教師がやってみせる。

自分でする。

教師が絵や図で表してみせる。

自分で絵や図に表す。

絵などを基に、子ども自身が簡単な問題文の作成をして文章問題に抵抗がないようにしたり、その問題を教師や周囲の子どもと一緒に考えて、自信を付けさせたりする。

家庭においては、買い物など実際の経験を通して、語いを増やしたり、数の概念を形成したりする。

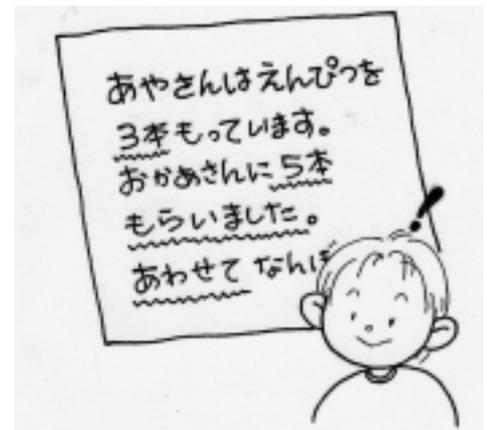


図100 マーカーの印



図101 具体物の操作

Q10 絵や工作，楽器の演奏などが苦手な子どもには，どう対応したらよいでしょうか

子どもの状態

人の顔で鼻を描き忘れるなど，年齢よりも幼い絵になってしまう。

リコーダーの穴を押さえることができない。

定規やはさみの操作が難しい。

図工や音楽，家庭の実習等をやりがらない。

状態の理解のポイント

- ・ 手先が不器用である。
- ・ 目と手の協応が苦手である。
- ・ 視覚的に全体をとらえたり，細部を観察したり，記憶したりする力が弱い。
- ・ 経験不足であったり，失敗経験の積み重ねがあったりする。

考えられる対応

目と手の協応を高めるようにする。

- ・ 単純化した絵を写したり，色塗りをしたりして，「かくこと」に慣れる。
- ・ 線の上を指やフェルトペンでなぞったり，点と点を線で結んだりする。(図102)

ピースの少ないジグソーパズルを時間を測って作るなどゲーム的な取組を通して，全体をとらえたり，細部に注意して見たり，それを記憶したりする。

貼り絵をしたり，パソコンのお絵かきソフト等を使ったりして，表現する楽しさや自信をもたせるようにする。

リコーダーの穴を押さえやすい状況を作る。(図103)

導入時に，指遊びをするなど穴を押さえる活動をゲーム的に取り入れ，手指の巧緻性を高めるようにする。

押さえる穴が少なくてすむ音だけでできた簡単なメロディを使って練習する。

押さえにくい穴は，始めはテープ等で補助的にふさいでおき，徐々にはずしていく。

楽譜とリコーダーの絵をマッチングする。

よく切れるはさみや紙を選ぶ，フェルトペン等で切る箇所を強調する，いろいろな形（ギザギザ，波形など）に切れるはさみを使うなど，切る楽しさを味わうようにする。

作業を進めるために便利な用具を積極的に活用する。(図104)

家庭でも作る楽しさを味わえるような経験を心掛ける。

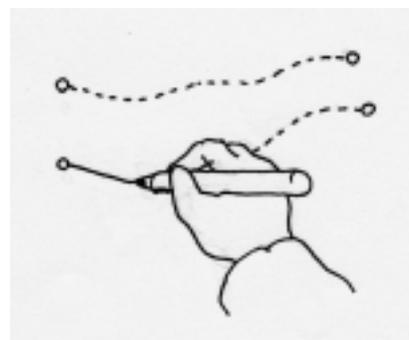


図102 目と手の協応



図103 リコーダーの取組



図104 便利グッズ

Q11 運動が苦手だったり，方向感覚の育っていないかったりする子どもにはどのように対応したらよいでしょうか

子どもの状態

姿勢が悪く，ぎくしゃくした動きが多い。
鉄棒や縄跳びなど運動が苦手である。
衣類の前後や靴の左右を間違えることが多い。
特別教室の場所をなかなか覚えられず，移動に時間が掛かる。
周りの物に身体をぶつけることが多い。

考えられる対応

トランポリンなど様々な遊具を使って，腹筋や背筋や手足の筋力を付けるようにする。ランニングや腕立て伏せなどを数値的な目標をもたせて日課に位置付ける。(図105)

自分の体の動きを感じ取ることができるようにする。

- ・ マットやブランコや滑り台等で，回転や揺れや上下の感覚等を感じるようにする。
- ・ 鏡で確認しながら，動きやポーズの模倣等をするようにする。

ボール等の速い動きを追えない子どもには，風船などを使ってゲームをし，視覚と運動の協応を促す。

トンネルや平均台，マット等を使って，サーキットをするなどして，体全体の動きの組み合わせをスムーズにする。

前後や左右の手掛かりになるマークを付けるなどして，慣れたら徐々にマークを外していく。

- ・ 利き手に目印（輪ゴム，マニキュアなど）を付ける。
- ・ 服の前後や靴の左右に印を付ける。

特別教室の移動の際は，友だちと一緒に移動する，教室のマークを手掛かりにする，校内マップを活用するなど段階的に工夫する。(図106)

家庭でも丁寧な状況説明と細かな段階を踏まえながら，様々な体験ができるように働き掛ける。

状態の理解のポイント

- ・ 姿勢保持に必要な背筋等の筋力が弱い。
- ・ 身体各部位の動きを感じ取る感覚器官の働き（ボディイメージ）が弱い。
- ・ 視覚と運動の協応が弱い。
- ・ 個々の動作の組み合わせが難しい。
- ・ 運動への苦手意識がある。
- ・ 上下左右などの認知が困難である。
- ・ 方向感覚に関する発達が遅れている。

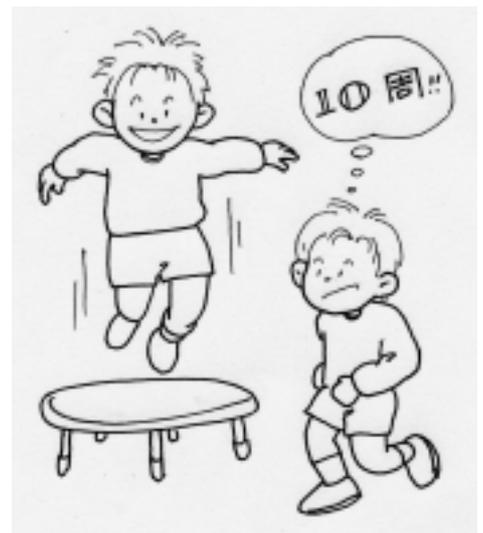


図105 いろいろな運動



図106 教室のマーク

Q12 忘れ物が多かったり，宿題をよく忘れてたりする子どもにはどう対応したらよいでしょうか

子どもの状態

教科書やノートなど学習に必要なものを学校に持って来るのを忘れてたり，音楽室等の特別教室に持っていくときに忘れてりする。

宿題があることを忘れる。

買い物で何を買って帰るのかをよく忘れる。

状態の理解のポイント

- ・ 不注意なため，必要なものを聞いていない。
- ・ 必要なものは分かっているが，確認が正しい加減のために抜け落ちてしまう。
- ・ 短期記憶が苦手である。
- ・ 聴覚情報の記憶や整理が苦手である。
- ・ 視覚情報の記憶や整理が苦手である。

考えられる対応

連絡帳を活用する。

- ・ 決まった時間に連絡帳記入の時間を確保する。
- ・ 翌日持ってくるものや連絡事項等を書くコーナーを決めておく。(図107)
- ・ 聴覚情報の苦手な子どもには，名前を呼んで注意を喚起したり，文字だけでなく，写真カードや絵カード等の視覚情報を活用したり，復唱したりするようにする。
- ・ 視覚情報の入力の手が苦手な子どもには読み上げるなど音声情報も添えるようにする。
- ・ 子どもがしっかり書いているかどうかを確認する。
(確認のスタンプやシール等を準備する。)

特別教室に持っていくものについては，教材一覧のカードを準備したり，セットにして袋に納めておいたりする。

宿題を入れるファイル等を決めておき，学校でも家庭でも必ずそのファイルに入れることを習慣にする。(図108)

家庭でも学校に持っていくものをまとめて置く場所を決めておくなどの取組をしてもらう。(図109)

保護者からも，学校に来る前に忘れ物がないかどうかを確認して，サイン等をしてもらう。



図107 連絡コーナー

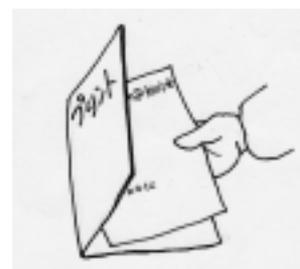


図108 宿題用ファイル



図109 置き場所

Q13 整理整頓が苦手な子どもには、どう対応したらよいでしょうか

子どもの状態

机の中やロッカーがいつも片付いていない。
周りにものが散乱している。
必要な物がすぐ取り出せない。
宿題や学習道具などの忘れ物が多い。
帽子や学用品などをよくなくす。

状態の理解のポイント

- ・ 整理整頓の方法が分からない。
- ・ 自分の物と他人の物との区別がつかない。
- ・ しまった場所や使ったことを覚えていない。
- ・ 行動の結果を予想したり見通したりすることが難しい。

考えられる対応

整理整頓の方法を具体的に指示する。
何をどこに片付けるかを指示する。
片付ける場所が分かりやすいように、絵や写真で表示する。(図110)
片付ける順序を分かりやすく知らせる。(図111)
定期的に片付ける時間を設定する。
細かく片付けるまでの一時的な箱等を準備する。(図112)

なくしたものがいないか確認する。
自分の持ち物がすぐ分かるように、大きく名前を書いたり、シールをはるなど印を付けたりする。
少しでも改善が見られたら、本人の努力を認め褒めるようにする。
持ち物をできるだけ少なくしたり、一つにまとめられるようにしたりする。
場所を移動するときに、持ち物の確認をする習慣を付ける。

改善がみられた方法等の情報を常に提供し合うなど、家庭との連絡を密にしながら取り組むようにする。

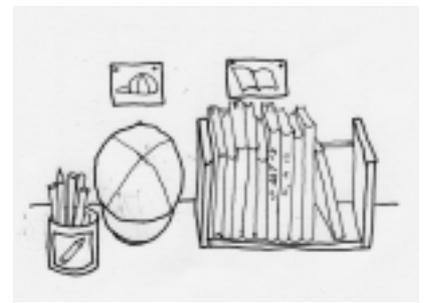


図110 場所の表示

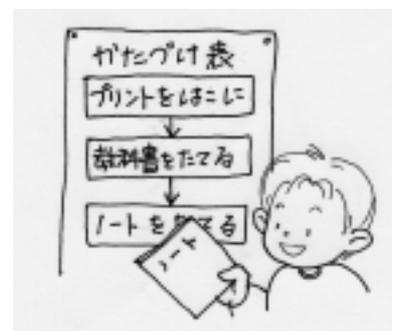


図111 順序の表示



図112 一時保管箱

Q14 順番が待てないなど、友達とのトラブルが多い子どもにはどう対応したらよいでしょうか

子どもの状態

遊びの最中にいきなり自分のしたいことをしたり、相手を傷つける発言をしたりする。

ゲームのルールを無視して行動したり、それが元で友達とトラブルを起こしたりする。

自分の順番が待てない。

いつも一番になりたがる。

状態の理解のポイント

- ・ 状況の認知がしっかりできていない。
- ・ 他人の気持ちを理解したり、自分の気持ちを表現したりすることが難しい。
- ・ 自分の衝動をコントロールする力が弱い。
- ・ ルールの理解ができていない。
- ・ 順序性を理解できなかったり、記憶できなかったりする。

考えられる対応

状況や相手の気持ちを知らせるようにする。

- ・ 子どもが行動を起こしたときの状況を説明したり、相手の気持ちを説明したりする。
- ・ 様々な機会に、読み物等を通して他人の気持ちの動きを理解させたり、必要に応じて役割演技により共感的理解をさせたりする。(図113)

ルールの理解を促す。

- ・ なるべくルールが単純な理解しやすいゲームに誘うようにする。また、必要に応じてルールを簡略化する。
- ・ 分かりにくいルールについては、図示したり、実際にやって見せたりして理解を促すようにする。

よさを認めたり、成功経験を重ねさせたりすることで、自己評価を高め、プライドをもたせることで自己コントロール力を高めるようにする。

順番を守れるような手だてをする。

- ・ 順番が分かりやすいように並ぶ。(図114)
- ・ 順番を守ることで楽しく遊べることを知らせる。

一番になれないときの気持ちの表し方や態度のモデルを大人が示すようにする。(図115)

家庭でも簡単なルールのゲーム等を通して、順番や順位の理解を促し、望ましい態度の形成を図るようにする。



図113 ロールプレイ



図114 並び方



図115 大人のモデル

Q15 無気力だったり，集団行動が苦手だったりする子どもや，友達とのかかわりをもちたがらない子どもには，どう対応したらよいでしょうか

子どもの状態

友達と遊べず，いつも一人で行動することが多い。
行事など一斉の活動でいつも遅れてしまう。
授業中ぼんやりしていることが多く，意欲が感じられない。
苦手意識が強く，できそうにないと思うと全く取り組みまない。

状態の理解のポイント

- ・ 周囲や自分の状況を把握したり，今後の活動を見通したりすることが難しい。
- ・ 遊びのルールや日常の決まりを習得していない。
- ・ 学習の内容が分からない。
- ・ 自分に自信がもてない。

考えられる対応

直接的な友達とのかかわりの前に，物を介したかかわりを増やすようにする。

- ・ 一緒に絵本を見て，内容について話し合う。
- ・ 係活動として，協力して金魚などの世話をする。

集団の活動が難しい場面を把握し，手だてを考える。

- ・ 指示を分かりやすくする。(図116)
- ・ 状況を分かりやすくする。
- ・ 活動を易しいものから難しいものへ。

グループ編成等では，面倒見のよい子などを介して，友達とのかかわりがもてるようにする。(図117)

集団での活動は，いきなり大きな集団ではなく，少人数から始めるようにする。

指示的な言葉掛けや禁止の言葉掛けが多くならないようにする。

全体の場で本人のよさを認め，伝えるようにし，本人の自信につながるようにする。

個別指導，TTの活用，個に応じた課題など，学習のつまずきへの対応を考える。(図118)

家庭でも家に友だちを呼んだり，スポーツ少年団など異年齢集団活動に参加したりする。

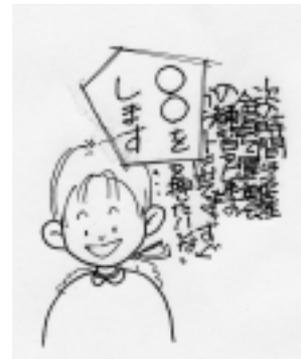


図116 簡潔な指示



図117 友達の誘導



図118 TTの活用

Q16 ささいなことで感情的になるなど自己コントロールが苦手な子どもには、どう対応したらよいでしょうか

子どもの状態

自分勝手な言動が多く、自分の思うようにならないと、かっとなる。

感情的になると暴言を吐いたり、物を投げたり暴力を振るったりする。

周囲が制止しようとしても、かんしゃくがおさまらない。

状態の理解のポイント

- ・ 感情のコントロールが難しい。
- ・ 行動の結果を予想したり見通したりすることが難しい。
- ・ 周囲の不適切な反応が、本人の行動を強化している。
- ・ 自分の感情を言葉で伝えるのが苦手である。

考えられる対応

友達への暴力や危険な行為などに対しては、毅然とした態度で対応する。(図119)

- ・ 短く分かりやすい言葉で伝える。
- ・ 感情的にならない。
- ・ 行動を叱っても人格を否定しない。

かっとなったとき、気持ちを静める手段を教える。(図120)

- ・ 先生に助けを求める。
- ・ 心の中で「1, 2, 3」と数を数える。
- ・ その場を離れる。

暴力を振るったり暴言を吐いたりしたときは、落ち着いた後、本当はどうすればよかったのかを考えるようにする。

「したかったんだね。」と、子どもの感情を受け止めるようにする。

本人が興奮しているときは、周囲はできるだけ反応しないようにする。

- ・ トラブルの相手の子どもを遠ざける。
- ・ 本人を静かな別の場所へ誘導する。(図121)
- ・ 大きな声で注意したり叱ったりしない。
- ・ 周囲の子どもたちがはやし立てない。

家庭との連絡を密にし、感情的になった際の対応について共通理解を図るようにする。



図119 注意の仕方



図120 気持ちの静め方



図121 場所の移動

Q17 時や場をわきまえず，動き回る子どもには，どう対応したらよいでしょうか

子どもの状態

授業中でも離席して歩き回ったり，着席しているときも，落ち着きがなく常に身体を動かしていたり，きょろきょろ見回したりしている。

ちょっとした物音や見えたものに興味や関心が移りやすく，学習や遊びに集中できない。

思い立つと結果を考えず，すぐに行動する。

状態の理解のポイント

- ・ 感情のコントロールが難しい。
(多動性や衝動性の一つの状態)
- ・ 行動の結果を予想したり見通したりすることが難しい。
- ・ 直接関係のない刺激に反応してしまうなど注意を持続することが難しい。
- ・ その場の状況判断・理解ができない。

考えられる対応

窓側，廊下側の気が散りやすい席を避け，教師が声を掛けやすい席にする。

不必要なものを片付けたり，カーテンをかけたりするなど，学習環境を整備する。

声を掛けたり，肩に触れたりして注意を引いてから話すようにする。

黒板を消す，プリントを配る，職員室へのお使いなど，授業中，離席が必要な活動を取り入れ，依頼する。

本人が望んで集中したいときは，教室に衝立^{ついで}などでコーナーをつくり活用する。(図122)

注意を集中するために必要な場合は，ある物をもてあそぶことも許可する。

挙手する，先生を呼ぶ，「これから をします。」と言うようにするなど，行動する前に考える習慣を付ける。(図123)

活動の見通しがもてるように流れを文字カードや絵カードで提示する。

危険につながること(火，道路，刃物等)については，機会あるごとに繰り返し教示する。

広い場所での活動のとき，フープ(輪)を置いたり，テープをはったり，地面に目印を付けたりして，自分の居場所を分かるようにする。(図124)

家庭での取組等を参考にするなど連携を密にする。



図122 環境の設定



図123 行動する前の合図



図124 フープの活用

Q18 時や場をわきまえず，しゃべりすぎてしまう子どもには，どう対応したらよいでしょうか

子どもの状態

授業中でもかまわずおしゃべりしてしまう。
声の大きさや話す速さを調整するのが苦手である。
質問が終わらないうちに答え始める。
自分の興味のある話を夢中で話しているうちに話題がどんどん変わってしまう。
初対面の人になれなれしく話すなど，相手に合わせて言い方を変えられない。

状態の理解のポイント

- ・ 感情のコントロールが難しい。
(多動性や衝動性の一つの状態)
- ・ 行動の結果を予想したり見通したりすることが難しい。
- ・ その場の雰囲気や相手の気持ちが分かりにくい。
- ・ 社会的ルールを習得していない。

考えられる対応

座席を前に置き，説明や質問の間は肩に手を置くなどして，発言のタイミングを知らせる。(図125)

不必要な発言に対しては，周りの子どもたちとともに，過剰に反応しないようにする。

話題が変わったときは，「 の話だったよね。」と話を戻すようにする。

話し始めるときは，「 について話します。」と話題から話すようにし，最初に意識付ける。

時と場に応じて声の大きさを調整するようにする。(図126)

ロールプレイ(役割演技)などを通して，相手に合わせた適切な言い方を教示する。

[例] 友達：「 先生はどこ？」 「職員室だよ。」

年上の人：「 先生は？」 「職員室です。」

発言時の約束を見やすいところに掲示しておく。(図127)

発言を我慢させるだけではなく，十分話を聴いてあげる時間ももつようにする。

家族で団らんのときなども，お互いに話のじゃまをしないようにして，よく聴いたり，交替で話したりする。



図125 発言の合図



図126 「声の大きさ」カード

- ・ 授業中に発言したいときは，手を挙げて知らせよう。
- ・ 友達が話しているときに自分も話したくなったら，「話してもいい？」と許可を求めよう。
- ・ 話す前に「 について話します。」と話題を伝えてから話そう。

図127 発言時の約束(例)

Q19 場面や状況の変化に適応しにくい子どもには、どう対応したらよいでしょうか

子どもの状態

初めての場所で落ち着かず、いつまでもそわそわしたり、不安がったりする。

初めての学習や活動に取り組むときに、やり方がすぐに理解できなかったり、やることに抵抗を示したりする。

時間割や日課・行事の急な変更があったときにスムーズに適応できず、行動するのを嫌がったり、始めるまでに時間が掛かったりする。

状態の理解のポイント

- ・ 自分の周りの状況を把握して行動することが苦手である。
- ・ 周囲が自分に求めていること、期待していることの理解が困難である。
- ・ 次に起こりうることを予想できずに適切な行動ができない。
- ・ 予定や状況の変化への対応が難しい。
- ・ 物事を柔軟に考えることが苦手である。

考えられる対応

不安がったり、抵抗したりしているときは、無理やり強制せず、しばらく時間を掛けて子ども自身が気持ちを整えて落ち着くのを待つ。

自分に求められていること、期待されていることが理解できるように、個々の子どもの実態に合わせて、実物、写真カード、絵カード、文字カード等の視覚的手掛かりを利用して、課題を明確に示すようにする。(図128)

1日、1週間、1か月の予定を、実物、写真カード、絵カード、文字カード等、個々の子どもが理解できる視覚的手掛かりを利用して把握できるようにする。(図129)

変更や中止をするときは、可能な限り早い段階で予告して、気持ちを整えられるようにする。

パニック等の極度の不安・混乱・情緒不安がみられるときは、その場から遠ざけ、気持ちが落ち着くのを待ってから静かに話し掛ける。

家庭でも専用のスケジュールボードを用意させるようにして、学習、活動、行事等の予定を事前に把握できるようにする。



図128 課題の視覚的提示



図129 スケジュールの提示

Q20 興味の偏りやこだわりのある子どもには、どう対応したらよいでしょうか

子どもの状態

特定の玩具やテレビ番組，本，食べ物，色，形，話題等へのこだわりが強い。

順序，予定，道順，物の位置などにこだわる。

自分の好きなことやしたいことが限られていて，同じ遊びを延々と続ける。

こだわっていること以外には興味を示さず，極端に嫌がり，やろうとしない。

こだわっていることが思いどおりにならないと，泣き叫んだり，物を投げたりする。

状態の理解のポイント

- ・ こだわらざるを得ない心理的特性（同一性保持行動）がある。
- ・ 興味の対象が限られていて，自分の好きなことだけ取り組む。
- ・ 同じ順序や状態でないと不安になる。
- ・ 心理的なよりどころとして，特定の物を保持している。
- ・ ストレスから逃避し，情緒を安定させるために，いつも同じことをする。

考えられる対応

迷惑にならないこだわりは認めるが，場所や時間を決めて，してよいときと，してはいけないときを区別するようにする。

こだわりのあるものを利用しながら，他のものへ興味を誘導し，興味の対象の拡大を図る。（図130）

課題の後に，こだわっていること・好きなことをするように促す。

例） かけっこの練習（課題）

パソコンを使った学習（好きなこと・こだわっていること）

心理的なよりどころとして特定のものを保持しているときは，無理に取り上げず，それを支えにしてできることを評価するようにする。

特定の物にこだわるときは，その対象物をだんだんと小さくしたり，手の届くところから少しずつ遠ざけたりする。（図131）

家庭でも，こだわっていること・興味のあることを糸口にして，趣味として余暇活動に発展させられないかを考えてもらうようにする。



図130 興味の対象の拡大

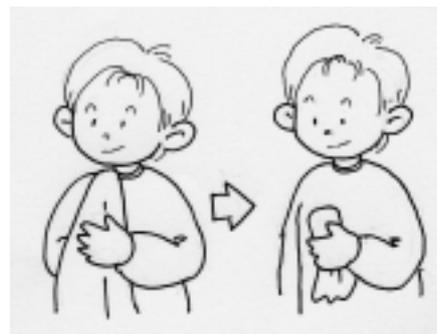


図131 こだわりの段階的消去